

亞細亞大觀



四川省點描

第百八十四回
第十六輯四回

內容

自流井の鹽井	自流井の鹽井	九眼橋	塗山	白水河の銅廠	四川省の芥子畑	宜昌峽の山雨	重慶橋	馬廐	江馬	揚子江概説
.....
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一

森田富義

島崎役治

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

編輯人 大連市山縣通一九三

青山捨夫

同 發行所 大連市三河町二

島崎役治

印刷人 鈴木周哉

大連市山縣通一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話 大連 六二三五
振替 大連 七一八



揚子江概説

森田富義

揚子江は支那中央部を通貫して流れその全長は三千二百哩あり、民船水路千七百哩、小汽艇は千五百哩、千哩までは汽船が運航してゐるのである。右の如く揚子江を朔航する大型船の運航は宜昌までである。此處までは大型の汽船が逆るが、これからは宜昌峽に入るのので、大船の朔航は困難である。従つて大船の貿易も宜昌止りであつて此處からは小汽艇を以つて巫山峽を越へ風箱峽を越して重慶に行かねばならぬ、依つて、支那では宜昌から重慶までの間を三峽の險と稱して、水運業者の最も恐がる場所である。河は山嶽重疊とした峪間を流れ、その絶壁の高さは千呎又は千五呎もあり峽江の長さは二十哩もあつて、その峽が或は迫り、或は遠く、水深また深く或は浅く、激流は川中に簇出せる岩石に碎けて舟夫の心膽を寒かしめるところが多いのである。

この三峽を上航する船は汽船も民船も沿岸に待つ人夫の力を藉り綱で曳航するのであるが、時に進路を誤つて川中の岩石に激突して船は難破し乗員の水死することが年に數回ある。また下航する船は急流に沿ふて上手に操る舟夫に依つて屏山縣重慶方面より宜昌に樂々と到着することが出来る。上流から下る筏はその上に小屋を建て畑に青菜を作り、牛を飼ひ鶏を養つて上海まで下航する風景は長江の筏ならではの見ることは出来なからう。嘘のやうな話であるが、上流からの雛の家鴨を追ふて江岸を下り、上海に到着した時は親鳥となり卵を産む位の日數を要するのである。上海人は、この家鴨の群の到着を待つて市か賑ひ食糧に關を來たすことになるのである。これらのことを實際に見、話として聞く時は實に長江ほどいゝろいゝの方面と意味によつて面白くまた益することも多いのである。夏季増水期には河岸の汚物を浩ひ流し、沿岸住民を益してゐるのである。

而してまた、この沿岸地味肥沃、農産物豊であつて、その物資を集散する貿易港もの並に商業都市は上海、鎮江、南京、蕪湖、漢口、岩州、長沙、沙市、宜昌、重慶等があり更に幾多の商港が沿岸散在して住民に利便を與へゐる。

揚子江は右の如く水運上ばかりでなく、終久何千年何萬年の昔からの流れで、支那の歴史的に見ても非常に由緒深く東洋史上に現はれる史實の投擧にも追ない程で、支那の主權者が代り、幾多國が没興しても、揚子江の流れだけは以前とした昔のままの濁水をたたえて流し國亡びても山河が有りの語を如實に物語つてゐるのである。けれども、この終久の流れの揚子江も、自然と、時流には抗するが出来ないと見へ、雨が降れば洪水となり、時世に従つては船を浮べて沿岸の物資を運ぶのである。

自流井の鹽井

(四川省)

自流井は四川省富順縣にあり、鹽田は七十萬方里あり、鹽水は地下三千尺の底に流れて、用として、鹽田の諸所を掩いて、鹽水を汲み上げて、その鹽水を釜で焚いて、鹽を煮出し、鹽を蒸らす。その鹽水を釜で焚いて、鹽を煮出す。その鹽水を釜で焚いて、鹽を煮出す。その鹽水を釜で焚いて、鹽を煮出す。



自流井の鹽井

(四川省)

自流井は四川省富順縣にあり、鹽田は七十萬方里あり、鹽水は地下三千尺にあり、鹽水を掘り流して、鹽水を汲み上げて、鹽水を煮て、鹽を採取する。鹽水の量は、年産額は三百萬元の多額に達する。鹽水の採取は、天然の石炭を使用し、薪や木炭を燃料とする。鹽水の採取は、年産額は三百萬元の多額に達する。鹽水の採取は、天然の石炭を使用し、薪や木炭を燃料とする。

一ノ回四ノ樹六十觀大節細亜

而してまた、この沿岸地味肥沃、農産物豊であつて、その物資を集散する貿易港もの並に商業都市は上海、鎮江、南京、蕪湖、漢口、岩州、長沙、沙市、宜昌、重慶等があり更に幾多の商港が沿岸散在して住民に利便を與へる。

楊子江は右の如く水運上ばかりでなく、終久千年何萬年の昔からの流れで、支那の歴史的に見ても非常に由緒深く東洋史上に現はれる史實の投擧にも遑ない程で、支那の主權者が代り、幾多國が没興しても、楊子江の流れだけは以前とした昔のままの濁水をたたえて流し國亡びても山河が有りの語を如實に物語つてゐるのである。けれども、この終久の流れの楊子江も、自然と、時流には抗するが出来ないと見へ、雨が降れば洪水となり、時世に従つては船を浮べて沿岸の物資を運ぶのである。

九眼橋は成都の東南角錦江の下流にあ
 る。橋眼九個あるが故に九眼橋と云ふ、
 これを過ぐれば一廢塔廻相塔があり成都
 城壁を望見する、旁に製革、製糸工場の
 煙筒が林立してゐる。更に流に添ふて下

四ノ輯六十観大亞細亞

舟鹽の井流自
 (省川四)

府たのがな依自で
 のめ物たしつ流遠四
 移か資めてて井く川
 轉重も市浮寫の海省
 候慶豊街び眞鹽を離の
 補に富も江にを以た井
 と破で極上示以れ支は
 した交め市すつた支は
 てた通てを如くな那鹽
 睨蔣も賑形くなし大産
 つ介至つ勢鹽し陸の地
 て石便てしてがるの鹽
 るはである。て江岸の
 の。そ、に、の供
 地、そ、に、の給
 をその他を有
 政のれをは名

二ノ回四ノ輯六十観大亞細亞





九眼橋

(四川省)

九眼橋は成都の東南角錦江の下流にある。橋眼九個あるが故に九眼橋と云ふ、これを過ぐれば一廢塔廻榭塔があり成都城壁を望見する、旁に製革、製糸工場の煙筒が林立してゐる。更に流に添ふて下れば望江樓と云ふ名勝地がある。だが九眼橋上の眺めは又格別である。

舟鹽の井流自

(四川省)

府たのがな依自で
 のめ物たしつ流遠四
 移か資めてて井く川
 轉重も市浮寫の海省
 候慶豊街び眞を離の自
 補に富も江にを以れ流
 と破で極上示つた井
 した交め市すつ支は
 てた通てを如くな那鹽
 院蔣も賑形し大の産地
 つ介至つ勢鹽して陸の
 て石便てりてが江の鹽と
 るはであるるの岸のの
 の。の。て。に。で。供。有
 地、そ、そ、列、あ、は
 を、の、の、を、を、を
 政の他れをるは名

白水河の
省(四川)

白水河の銅廠は四川省成都の北方鼓縣にある省内第一の銅鑛の産地で銅廠もここに

塗 山

(省 川 四)

を重慶の對岸南に聳ゆる高峻なる山岳
靈山は實武山と云つて古來著名なる
が山である。今武山と云つて古來著名なる
が山である。今武山と云つて古來著名なる
周圍二十里有名。昔嘗て禹に諸公七會
し、こゝに禹の廟あり。又、禹の廟あり。
の家、葛嶺の所。葛嶺、山嶺の所。葛嶺、
故に右嶺の所。葛嶺、山嶺の所。葛嶺、
一、大江の右、葛嶺の所。葛嶺、山嶺の
と、大江の右、葛嶺の所。葛嶺、山嶺の
に、大江の右、葛嶺の所。葛嶺、山嶺の





白水河の銅廠
(四川省)

白水河の銅廠は四川省成都の北方鼓縣にある省内第一の銅鑛の産地で銅廠もここにあり。

五ノ回四ノ輯六十観大亜細亞

塗山
(四川省)

重慶の對岸南畔に聳つてゐる峻高なる名山。其の北に靈山あり。昔武王が周の天子として、天下を治めんとす。是れを周の靈山と云ふ。其の南に塗山あり。昔禹が夏を興せんとす。是れを禹の塗山と云ふ。其の西に葛嶽あり。昔黄龍が其の窟に住し、禹の治水を助けたる。其の東に石鐘山あり。昔王子大洞の窟に住し、禹の治水を助けたる。其の南に石鐘山あり。昔王子大洞の窟に住し、禹の治水を助けたる。其の東に石鐘山あり。昔王子大洞の窟に住し、禹の治水を助けたる。

四ノ回四ノ輯六十観大亜細亞

宜昌峽
長江

實山なる水
物にる路揚
凄峽のと賀子
きばで即易江
もまあちのの
のりる三盛上
で長。峽ん流
迫潭宜の宜昌
ると昌儉では
山なりは一つ
も亦急長つ支
重流江た那
壘とのる宜こ
とな水路昌於
てし山峽よけ
遙てとり

四川省の芥子畑
(四川省)

るれ・るあにヒ培
芥紫がる芥のし支
子・、子吸て那
の白夏寫を畑る大
花園色こは埋亭、に
とりが四し樂そは
なりど開省樂一は
實り花にをと支
に見花期於採す那
事か節と芥て習が
な咲な子るか阿
もの萬れ畑るあ片
で目ばでのる芥
あこ紅あで故モ栽





雨山の峽昌宜
(岸沿江長)

あろてるる實山なる湖水
 るでる。か物にるる路揚
 そる寫に凄峽のと賀子
 の風眞遠さばで即の易江
 氣景はくもまあちの盛上
 分で宜近のりる三盛上
 は雲昌くで長。峽ん流
 普通峽、迫潭宜のな宜
 通山のそると昌儉處昌
 て間山の山なりは一つ中央
 はの々景もりは一あ中
 味谷がは亦急長つつ支
 へに山頗重流江たる、那
 とれに雄とな水宜こに
 ころ閉大しり路昌れ於
 るとざでてし山峽よけ
 でこれあ遙てととりる

七ノ回四ノ輯六十観大亞細亞

畑子芥の省川
(省川四)

るれ・るあに
 芥紫がる芥
 子・、。子
 の白夏寫を
 花園色こは裁
 とりが川魔
 なりど開省樂
 實の花にを採
 に見の於取
 事が節けるし
 な咲と芥て
 もきな子る
 の萬れ畑の
 で目ばあ
 であ紅あ

六ノ回四ノ輯六十観

驕馬橋

(省川四)

そるり功にのり水上
の橋蜀乘を、經に驕
橋行をにら觀司注あ馬
の人駒入ざる馬にり橋
史は馬るれ、相一、は
實こ橋やばそ如城一、四
をのと果汝のの北名川
知由はしの門將十昇省
ら緒こて下のにに里仙成
者あのを謂長昇橋都
が多橋か志ぎてに安仙と北門
いをらのぞ曰入と云外
、過云如るクら云つ五
橋ぎふしな高んふて支
畔なの一り車と送るの
にかでと駒す客の路
はらああ後馬るあ。路

慶重

(省川四)

楊前眞如て合る日
子方はきる流都本蔣
江に丘般る點市空介
で流上賑。にで軍石
あれよな日存あのが
るるり市本在。爆三
河重街空し。擊度
か慶の軍概市地目
嘉市面數ね街との選
陵街影十市はし都
江をか度街楊て都
で望残のは子世地
石んる空岩江界で
手だ々爆石と人あり
前と否に上嘉の注、
のこや寫に陵江目今
河る、眞出江目今
がで寫の來のす、





駟馬橋

(省川四)

車、の、途、そ、る、り、功、に、の、り、水、上、
 切、の、橋、行、を、に、ら、觀、司、注、あ、馬、
 從、長、張、の、人、駟、入、る、れ、相、一、
 橋、橋、鵬、史、は、馬、る、れ、相、一、
 上、題、翻、實、こ、橋、や、ば、そ、如、城、一、
 歸、柱、の、を、の、と、果、汝、の、の、北、名、川、
 名、去、撰、知、由、は、し、の、門、將、十、昇、省、
 共、猶、書、ら、緒、こ、て、下、に、に、里、仙、成、
 東、定、に、者、あ、の、そ、を、謂、長、昇、橋、と、北、
 流、未、か、多、橋、か、志、ぎ、て、入、と、云、外、
 水、陸、詩、を、過、云、如、ク、ら、云、つ、
 滔、時、碑、を、過、云、如、ク、ら、云、つ、
 及、が、橋、ぎ、ふ、し、な、高、ん、ふ、て、支、
 無、乘、立、畔、な、の、り、車、と、送、る、の、
 盡、駟、つ、に、が、と、と、駟、す、客、の、
 期、馬、て、は、ら、あ、あ、後、馬、る、あ、路、

九ノ回四ノ輯六十觀大亞細亞

慶重

(省川四)

楊、前、眞、如、て、合、る、日、
 子、方、は、き、る、流、都、本、蔣、
 江、に、丘、殷、る、點、市、空、介、
 で、流、上、賑、に、で、軍、石、
 あ、れ、よ、な、日、存、あ、の、が、
 る、る、り、市、本、在、る、爆、三、
 河、重、街、空、し、擊、度、
 か、慶、の、軍、概、市、地、目、
 嘉、市、面、數、ね、街、と、遷、
 陵、街、影、十、市、は、し、都、
 江、を、か、度、街、の、は、子、世、
 で、望、殘、の、は、空、岩、江、界、
 石、ん、々、爆、石、と、人、
 手、だ、と、否、に、上、嘉、の、
 の、こ、や、寫、に、陵、注、
 河、ろ、眞、出、江、目、
 が、で、寫、の、來、の、す、

八ノ回四ノ輯六十觀大亞細亞



眠江
（四）
西川
沿省
岸

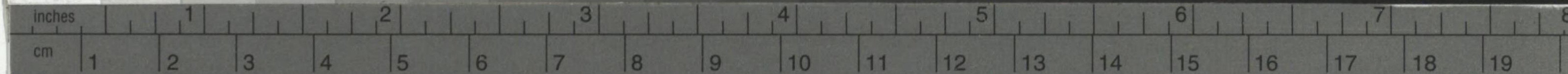
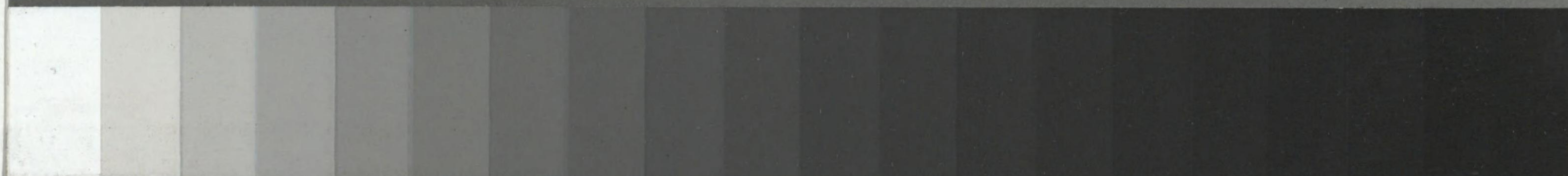
眠江は青神縣に在り地勢は錦江流域に沿ふ平野を控へてゐる。平野は地味豊饒である故に農産物は豊饒である。またこの附近一體に養蠶が盛んであり烟草の産地である。寫眞は水路運輸の川舟か眠江市街に向ふところで、附近の特産物はまたこの川舟で各地に運搬される。

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

